

報告事項ヌ

鳥取県立美術館に設ける「美術ラーニングセンター(仮称)機能」について

鳥取県立美術館に設ける「美術ラーニングセンター(仮称)機能」について、別紙のとおり報告します。

令和4年3月19日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

## 鳥取県立美術館に設ける「美術ラーニングセンター(仮称)機能」について

令和4年3月19日  
美術館整備局美術館整備課

令和7年春に開館する鳥取県立美術館には、子どもたちをはじめとするすべての人々の「美術を通じた学び」を支援する「美術ラーニングセンター(仮称)」機能を設け、県内の小学生を招待して対話型鑑賞を通じた学びを提供するなど他の施設には無い特色を持たせることとしており、計画的に準備を進めていますので報告します。

### 1 美術ラーニングセンター(仮称)のねらい

県立博物館が実践を重ねてきた「美術を通じた学び」を更に充実させて、子どもたちをはじめとする様々な利用者の方々に体験してもらうことによって、次のような効果を得ていくことを目指す。

- ①美術がもたらす様々な能力の向上  
想像力、創造性、コミュニケーション力のほか、みる力、問題発見力(気づく力)、思考力、発想力、答えのない問いに向かい合い続ける力、批判力、批評力、対話力 など
- ②他者理解の深まりと自己肯定感の高まり
- ③未知のものや異質なものを受け入れる寛容性・柔軟性及び思考の多様性の獲得

### 2 美術ラーニングセンター(仮称)の活動

学校などと連携して「美術を通じた学び」の実践・検証を重ねながら、国内外の最新の知見と共にプログラムの研究・開発を進め発信していく、他に類を見ない学びの拠点・研究室としての活動を目指す。

- ①プログラムの提案・実践  
→利用者に応じた「美術を通じた学び」のプログラムをつくり、館内外で実施する。
- ②研究・開発  
→美術教育に関する国内外の最新の知見を研究しながら、「美術を通じた学び」の手法の開発を行う。
- ③相談  
→学校をはじめ、美術の活用や関わりを求める多様な利用者からのニーズに対応する。
- ④効果等の検証・ノウハウの蓄積  
→外部の研究機関とも連携して検証や蓄積を行う。
- ⑤成果の発信・共有  
→様々な形で成果を発信・共有し、プログラムの改善と国内外に通用する評価に繋げていく。

#### ※美術ラーニングセンター(仮称)機能の名称検討

活動が、事業の実施に留まらず相談からプログラムづくりや研究・開発にまでおよぶことと、狭義の美術よりも広義のアートによる「アートを通じた学び」を目指していきたい趣旨から、アートと学びに関する開かれた研究室としての名称案を検討中。

例として、「アート・ラーニング・ラボ(ALL)」

### 3 美術ラーニングセンター(仮称)機能と対応したコンテンツ・プログラムの例

機能	コンテンツ・プログラムの例
提案・実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全県の小学4年生(又は3年生)を対象とした県立美術館へのバス招待</li> <li>※生涯にわたる視野で小学生のバス招待事業を「ミュージアム・スタート・プログラム」と位置付け、対話型鑑賞を中心とした鑑賞プログラムによる美術を通じた学びを推進する。</li> <li>○対話型鑑賞のファシリテーターの養成(講座・学生から一般を対象)</li> <li>○地域で活動する関係者や団体と連携した協働プログラムの実施</li> <li>○地域にアーティストが滞在して制作するプログラムとの連携</li> </ul>
研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な利用者を対象とした「美術を通じた学び」の手法の研究</li> <li>※既に対話型鑑賞は、医学生の研修や視覚障がい者の鑑賞などで試みられている。</li> <li>○学校や教育センターと連携した様々な教科への展開、研修方法についての研究</li> <li>○高等教育機関と連携したプログラムの開発</li> <li>○幼児や高齢者、障がい者など様々な利用者に応じた個別プログラムの開発</li> <li>○対話型鑑賞をはじめとする多様な鑑賞プログラムの開発</li> <li>○アーティストとのラーニングプログラムの共同開発</li> </ul>
相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美術教育や美術事業に関する相談窓口の設置</li> </ul>
検証・蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な利用者を対象としたプログラムを記録し、効果を検証する。</li> <li>○児童生徒作品のアーカイブ</li> <li>○利用者へのインタビュー、公開検証会の開催等</li> </ul>
発信・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な利用者を対象としたプログラムの記録や検証、それを基にした改善と開発した新たなプログラムなどを発信・共有。</li> </ul>

### 4 今後の進め方(案)

年度	主な進め方
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実践(小学生バス招待事業、コレクション宅配便、対話型鑑賞ファシリテーター養成)</li> <li>・美術ラーニングセンター機能の定義の整理、対話型鑑賞などの効果の整理</li> <li>・教育委員会関係課とのワーキング作業</li> </ul>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会、議会、教育行政連絡協議会等への進捗報告</li> <li>・障がいある子どもたちや大人などへ向け幅広い事業の実践と取組みの周知広報</li> <li>・ファシリテーターの研修と登録制度の開始</li> </ul>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村教育委員会や校長会などとの情報共有と現場での準備開始の検討</li> <li>・幅広い事業の実践とブラッシュアップ、県内外の研究機関やアーティストとの連携</li> <li>・開館後のバス招待事業の具体的な運行プランの提示</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の学校年間行事予定へのバス招待事業の組み込み、予約の受付</li> <li>・学校向け予習動画の配布</li> <li>・サポーターと一緒にあった対話型鑑賞などの実証</li> </ul>
(令和7年春)	鳥取県立美術館の開館、美術ラーニングセンター(仮称)機能の稼働
(令和8年以降)	学びの拠点・研究室としての美術ラーニングセンター(仮称)機能の確立

# 美術ラーニングセンター（仮称）活動計画概念図

## 美術館の教育普及事業とその目的

### 普及的展示

- 多様な作品に出会える場をつくる
- あらゆる年齢、状況にある方が作品を楽しめる場をつくる

### 鑑賞プログラム

- 作品との多様な出会いを研究・開発・提案し、享受してもらう
- 作品やアーティストに対する理解を深める

### ワークショップ

- 多様な方法で、作品やアーティスト、各種地域資源等と関わるプログラムを行う

### プロジェクト

- アートを通じた学びに関連する多様な普及プロジェクトの開発

## 鳥取県立美術館

- ### 展示室
- 作品展示
    - ・ 子どもミュージアム
    - ・ ジュニアミュージアム
    - ・ キュレータープロジェクト
    - ・ アーティストインレジデンスからの展示
    - ・ 多様なアートと出会う場をつくるような展示
    - ・ 障がいのある方々がより楽しめるような展示
  - 鑑賞
    - ・ 赤ちゃんといっしょに鑑賞
    - ・ 対話型鑑賞
    - ・ ギャラリートーク
    - ・ 触覚、聴覚等を使った鑑賞
    - ・ 教科横断型での鑑賞
    - ・ 認知症、自閉症等を対象とする対話型鑑賞
    - ・ 不登校の子もたちを対象とする鑑賞
    - ・ ワークシートを用いた鑑賞
    - ・ 対話型鑑賞ファシリテーター養成講座

- ### ワークショップルーム
- ・ 学芸員による W.S.
  - ・ ボランティアスタッフによる W.S.
  - ・ アーティストによる W.S.

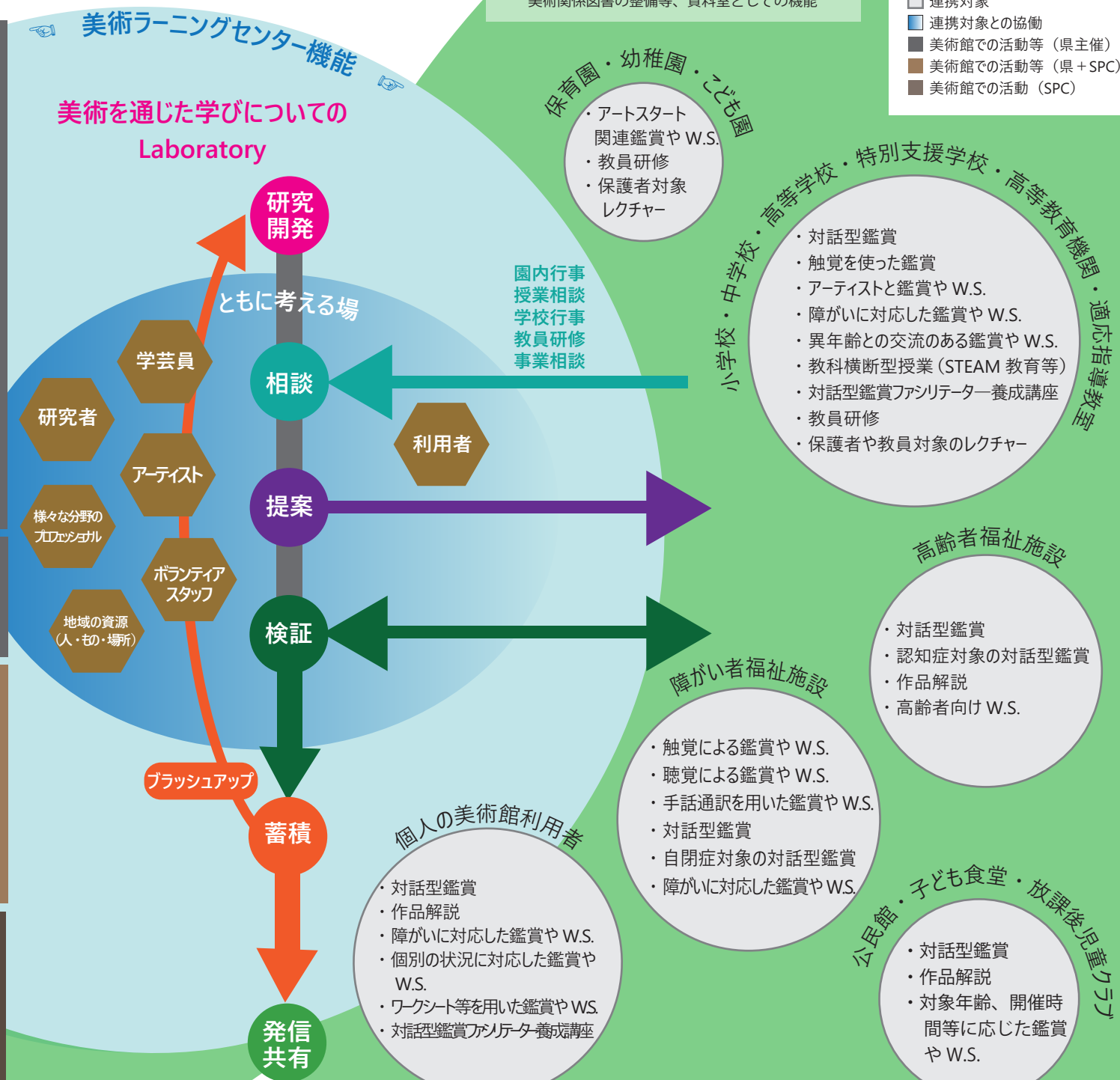
- ### 県民ギャラリー等
- ・ 文化的活動者の活躍の場
  - ・ 貸館
  - ・ 映画会

- ### キッズルーム
- ・ 絵本の読み聞かせ
  - ・ 作品展示
  - ・ 子どもアートシアター
  - ・ パフォーマンス
  - ・ 託児

- ### エントランス等
- ・ 賑わいの創出
  - ・ 文化、観光を推進

- ### 図書室・資料室
- ・ 美術関連図書
  - ・ 映像
  - ・ 児童生徒作品のアーカイブ（美術教育の変遷の理解）

- ### バックヤード
- ・ バックヤードツアー



	内容	成果	感想・作品等	キーワードと事業風景
対話型鑑賞	<p>&lt;バス招待事業&gt;</p> <p>○県立美術館開館時に、県内の小学4年生(又は3年生)を招待することで、全ての小学生が一度は美術館を訪れ、美術館に親しみを持ち、楽しみ、学ぶことができることを目指し、現在、当館での「バス招待事業」として試行・検証を重ねている。</p> <p>○令和3年度は企画展「東郷青児と前田寛治、ふたつの道」の会場で対話型鑑賞を実践。小グループに1名ずつのスタッフが付き、多様な鑑賞法を試行・検証した。(8校498名に実施)</p> <p>&lt;コレクション宅配便&gt;</p> <p>○県博所蔵のコレクションを学校に持ち込み、一日限りの展覧会を行うアウトリーチ事業。本物の作品を前に対話したり触れたりしながら鑑賞することで、子どもたちに豊かな鑑賞体験の場を提供している。</p> <p>【令和3年度実施校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三朝小、岸本中、境二中、米子高専、鳥取短期大学2回</li> </ul>	<p>○対話型鑑賞では、<u>まず自分の目で作品をしっかり見ることからスタートするため、能動的に作品に関わり、良さを発見し、自身の言葉で語り、他者の意見を聞く場が生まれる。そのことによってコミュニケーション能力の向上や他者理解、自己肯定感の向上等を図ることができる。</u></p> <p>※対話型鑑賞を体験後、子どもたちは自ら問いを立て、作品と対話できるようになるため、鑑賞の様子に明らかな変化が見られる。</p> <p>※今年度から一般の希望者、鳥取短期大学の学生等を対象にファシリテーター養成講座を開催し、その育成について試行中。</p>	<p>【バス招待事業 事後アンケートより(引率教員の回答)】</p> <p>○子どもたちは<u>のびのびと思いを伝えあい、見方や感じ方が深まったり広がったりすることを実感していた。</u></p> <p>○体験したことが思った以上に子どもたちの記憶や心に残っていた。</p> <p>○子どもたちは、<u>伝えることの喜びや、伝え合うことのすばらしさを実感していた。</u></p> <p>○学校に戻ってから、<u>一段と楽しく作品づくりをしている。</u></p> <p>○図工だけでなく、<u>他教科(社会)の学習でも、博物館の体験を思い出し、関連させて学習を進めることができた。</u></p> <p>【コレクション宅配便(感想)】</p> <p>○自分では思いつかなかった見方や解釈を聞くことが楽しかった。</p> <p>○自分の考えをまとめて口に出すことで、改めて自分はこういう風に作品をみているのかと分かったり、人の意見を聞くことで新しい視点で作品を見たりすることが出来た。<u>語彙力や想像力が鍛えられると思った。</u></p>	<p>←本物と出会う、リアルな体験</p> <p>←コミュニケーション能力、他者理解、自己肯定感の向上</p> 
アーティストと鑑賞やWS	<p>&lt;アーティストとつくりよう&gt;</p> <p>○県内のアーティストを講師として学校に出向き、制作や鑑賞を行う。(平成13年よりスタート)現役のアーティストから直接レクチャーを受け、ものの見方や技術を学ぶことができる他、芸術家という職業、作家の人柄にふれる機会ともなる。</p> <p>【令和3年度の実践(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：鳥取因幡焼の三木健太郎氏によるご飯茶碗制作(浜村小)</li> <li>・デザイン事務所「うかぶL.L.C」三宅航太郎氏によるポスター制作のレクチャー(名和中)</li> </ul>	<p>○作家に出会い、作家になるまでの経緯や作家になってからの活動等を聞くことで、<u>キャリア教育的な意味合いも生まれるため、小学校高学年を対象とする依頼が多くみられる。</u></p> <p>○アーティストが関わることで通常の授業では体験しにくい活動が可能となる。<u>地元作家との触れ合いを通して、ふるさとを見つめる機会</u>ともなる。</p> <p>※陶芸の授業では、子どもたちが焼成された茶碗を大事そうに扱う姿があり、ものを大切にできる態度も養われる機会ともなっている。</p>	<p>【名和中学校の美術教員の言葉】</p> <p>○「デザイナーって、そこまで考えてつくるんだ」など、生徒たちは新鮮な驚きや発見を得ていた。</p>  <p>三宅氏レクチャー風景</p>  <p>生徒作品</p>	<p>←アーティストとの出会い</p> <p>←ふるさとキャリア教育</p> 
障がいに対応した鑑賞やWS	<p>&lt;個別のニーズに応じたW.S.等&gt;</p> <p>○特別支援学校や特別支援学級、適応指導教室等から依頼を受け、ニーズや実態に応じた活動を提供している。</p> <p>【令和3年度の実践(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光絵具で模様を描いた後、ブラックライトの光で鑑賞するW.S.の実施(オンライン)(倉養)</li> <li>・教員を対象とした図画工作実技研修(オンライン)(県米養)</li> <li>・スタンドカラーシートを用いたW.S.(来館)(郡家西小学校 特別支援学級)</li> <li>・コラージュのW.S.(適応指導教室 すなはま)</li> </ul>	<p>○技法や用具、材料の関係で、普段学校では企画が難しいと思われる体験を、ニーズに応じて提供することができる。</p> <p>○準備段階で、対象や内容、授業展開などについて丁寧な打合せを行うことが、活動の充実につながっている。</p> <p>※子どもたちの実態や特性に合わせたよりよい活動を提供できる。</p>	<p>【教員を対象とした実技研修の感想より】</p> <p>○実際に素材に触れて活動する中で、良さや特徴が分かってよかった。とても魅力的な素材だった。子どもたちに活動させる時にどのように工夫すれば使いやすいか考えていきたい。</p> <p>○実際に体験することで、子どもがどこで躓きそうかイメージすることができた。この条件やテーマだと「楽しい!」と感じられるような教材研究を行っていきたい。</p> <p>○鑑賞の仕方や、制作の過程が参考になった。「対話的な学び」と言われる今、<u>教員同士が会話をしながら制作できたのも良かった。</u></p>	<p>←個別のニーズへの対応</p> 
高校生を対象としたPJ	<p>&lt;夏休み子ども向け企画:高校生キュレータープロジェクト&gt;</p> <p>○公募によって、高校生キュレーターを募集。当館のコレクションを用いて展覧会を企画した。</p> <p>○活動は企画のみならず、展示作業、広報活動、ギャラリートークなど広範囲に及び、会期中に開催したギャラリートークには一般の来館者だけでなく、クラスメイトや高校教員なども集まった。</p>	<p>○アートにより深い興味のある生徒に美術に能動的に関わることのできる場を提供できた。</p> <p>○「展覧会をつくる過程」を体験することは、美術館・博物館、鳥取ゆかりの作家や作品への理解を深め、その魅力を再確認する機会となるとともに、<u>自己成長を実感できる機会</u>ともなった。</p>	<p>【キュレーターを体験した高校生の感想】</p> <p>○学芸員を志望している。本物を使った体験ができる、またとない機会だと思って申し込んだ。展覧会を企画する中で、いろんな人に見てもらい、よりいいものができていく過程が、すごく勉強になった。学芸員同士が活発に議論を交わす姿が印象的で、より学芸員を目指す思いが強まった。</p>  <p>高校生がデザインした展覧会のチラシ</p>	<p>←美術に能動的に関わる機会</p> 
教員研修	<p>&lt;県教育センターと連携した研修の開催&gt;</p> <p>○令和3年度は、県教育センター主催の専門研修で全校種、全教科の教員を対象として企画展開催時に「対話による深い学び」をテーマとした研修を開催した。(令和4年度も同じテーマで開催予定)</p> <p>【その他 これまでの実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目研修(小学校・義務教育学校)において、当館所蔵作品を用いた対話型鑑賞の体験(H30~R2)</li> <li>・小学校図画工作科の研修において、「教員自身が鑑賞の楽しさを実感することを通して、鑑賞授業の充実につなげること」をねらいとした研修(R2)</li> </ul>	<p>○対話型鑑賞の体験が、広い視野で<u>普段の授業づくりや子どもとの関わり方を見直すきっかけ</u>になっている。</p> <p>○学校教育(教員)に働きかけることで、「美術を通じた学び」への理解が深まり、先生方自身の実感を持った気づきや理解が子どもたちに還元されることが期待できる。</p> <p>○今後も学校に関わる鑑賞プログラムを継続的に開発する。</p> <p>※学校の先生方のニーズを聞き、協働して鑑賞プログラムを開発し、試行・検証していきたい。</p>	<p>【令和3年度 研修後の「振り返りシート」より】</p> <p>○子どもたちが何を言おうとしたかを正確に聞き取ることで、相手に伝えたいという思いにつながり、対話も増えて学びが広がったり、深まったりと感じた。</p> <p>○教科も校種も異なる先生方との研修は新鮮だった。教師が喋りすぎず、教師が生徒の思考を拾ってつなげながら、最後は個に返して、<u>学びを深めるために必要な手立て</u>をしていきたい。</p> <p>○自分で考える時間、対話をして深める時間、考え方や見方が違って良いという安心感を保障していきたい。</p> <p>○魅力的な課題を用意することで、児童の意見を引き出し、話し合う中で本質に迫れることが大切だと感じた。</p>	<p>←視野の広がり</p> <p>←授業改善、子どもの見取り</p> 